KANI PUBLIC ARTS CENTER ala

MACHI GENKI PROJECT

alaまち元気プロジェクトレポート

2017

www.kpac.or.jp/machigenki/

2017年度 エイブル・アート展 展示作品
「なかよしなあらいぐま」上野和子（たんぽぽの家アートセンターHANA所属）

アーラが発信する
コミュニティデザインのかたち
「alaまち元気プロジェクト」。
人々が出会い、思い出を共有し、お互いを理解する。
繋がることで新しい絆が生まれ、
生きる活力が湧いてきます。
プロジェクトは、アーラとアーティストだけではなく、
市民サポーターや関係各所の協力のもと
地域の皆さんへ届けられています。
みんなの力を集結して、アーラは市民の皆さんに
元気と明日の希望を届けます。

▲作家：上野和子さん「エイブル・アート展」来館時

［プロフィール］
1950年生まれ。奈良県在住。絵筆をかろやかに滑らせるのは左足。何枚も描き重ね、足の感覚を養ってきた。シンプルに簡略化された色彩でそこにある「生命力」を描き出す。生きているものの躍動感を表現するためにそれを描く彼女自身も、笑顔が絶えないパワフルな生きものだ。

「つながり貯蓄」のために ―

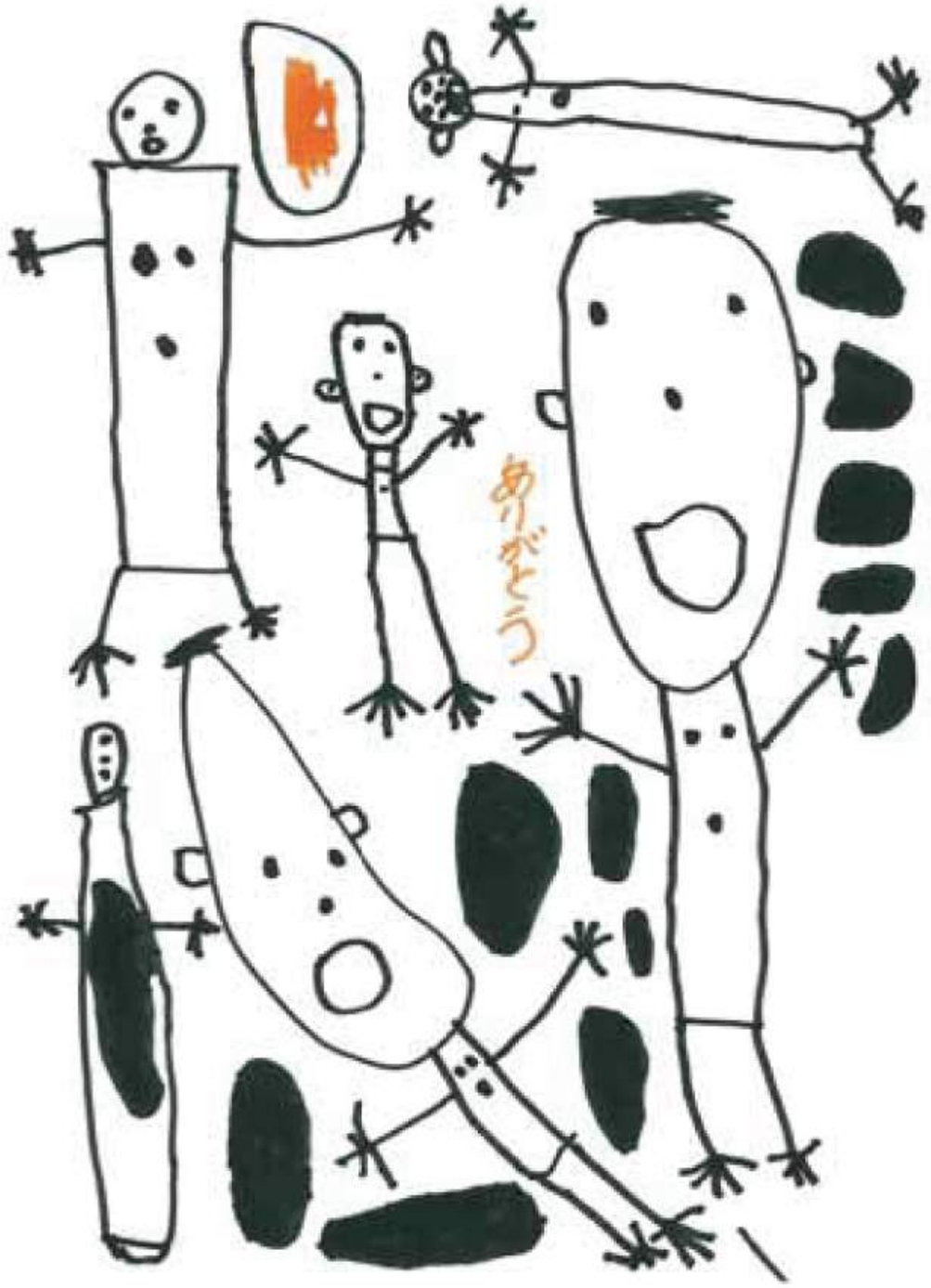
孤立と孤独を回避する、劇場の社会的使命。

可児市文化創造センターala
館長兼劇場総監督　衛 紀生

「相対的貧困」という言葉がマスコミで広く流布されて10年を越えました。貧困なのにスマホを持っているとネット上で激しいバッシングを受けた少女がいました。そのバッシングをした当人たちも、実は貧困になる崖っぷちに立っていることが多いと言われています。あるいはもう既に落ちているのに当人だけが気付いていないのかも知れません。彼らを衝き動かしているのは「恐怖」です。貧困に陥るのではという「恐怖」にほかなりません。「相対的貧困」は先進国の抱える共通した社会問題で、飢餓寸前に痩せ衰えていたり服がボロボロだったりと「見える貧困」ではなく、「見えない貧困」です。「相対的貧困」には共通する3つの要素があります。1つ目は、むろん「経済的な貧しさ」、2つ目は「つながりの貧困」、3つ目はそのことからくる「自己肯定感の貧困」です。その結果の「孤立と孤独」です。

『alaまち元気プロジェクト』はその「つながりの貧困」と「自己肯定感の貧困」に誰も陥らないための「まちを元気にする処方箋」として2009年に年間265回で始められました。近年では年間400回を超え「誰も孤立させない」をミッションに継続されています。これは文化芸術の社会包摂機能を稼働させた戦略的な投資としての劇場音楽堂等の重要な任務のひとつだと職員の全員が自覚し、そして子どもたちや高齢者、障がいのある方、子育て中の方からワークショップの現場で教えられていることです。

私はこんな時代だからこそ、自分の身に何かが起きた時のために「つながり」を沢山持っておくべきと思っています。「つながり貯蓄」です。阪神淡路大震災の時に避難所で元気だったのは「金持ち」ではなく「人持ち」の人たちでした。厚労省も国交省も「地域共生社会の実現」が重要なセーフティネットになると政策を発表しています。



▲「広見小学校 特別支援学級児童による「児童・生徒のためのコミュニケーションワークショップ」の感想イラスト

「自立」とは誰にも頼らないことではありません。沢山の依存先を持っていることこそが本当の意味での「自立」です。誰にも頼らないのは「孤立」です。

そして私たちは『alaまち元気プロジェクト』の成果の数値化に踏み込んでいます。中途退学者が激減した県立東濃高校のプロジェクトは、芸団協の調査で社会的投資収益率が2016年は9.86、2017年は16.7と算出され、また「児童・生徒のためのコミュニケーションワークショップ」は、2017年可児市の調査で2.31と出ました。この数字は、事業経費に100万円を投入すると（100万×2.31）231万円の社会コスト・行政コストが削減されたということを意味します。「誰も孤立させない」は、庶民の側からの究極の「一億総活躍」であり、「地方創生」なのです。

2017年度 実績報告

アーラは「芸術の殿堂」ではなく、人々のさまざまな思い出のつまった「人間の家」でありたいと考えています。プロジェクトを通じて出会いや気づきがあったり、劇場に足を運ぶことが困難な方にはこちらからワクワクをお届けします。プロジェクトは、市民サポーター、関係施設、有志の方々などたくさんの力に支えられています。わたしのココロが元気になって、周りの人のココロも元気にしたい。その思いが『まち元気』につながっていきます。

1 大型市民参加公演 市民ミュージカル「君といた夏」～スタンドバイミー可児～

► アーラ恒例　大型市民参加型公演

稽古実施回数 43回
参加者数 83人 延べ2,541人
公演回数 2回
集客数 1,640人

連携・協力｜市民サポーター

2 「君といた夏」関連企画「忍者ワークショップ『忍者修行』」「現代キッズ・ヤングよ、これがSHOWAだ！」

► 小学生のための忍者ワークショップ。COOLな昭和の遊びを詰め込んだ参加型イベント

実施回数 3回
参加者数 90人

連携・協力｜市民サポーター、市民ワークショップ活動団体 Fun Fan ala

11 ROCK FILL JAM in ala 2017

► マルシェ、アート、美味しいもの！劇場型音楽フェス！

実施回数 1回
集客数 1,500人
参加者 ライブ出演19組 マルシェ・フード出店53組

連携・協力｜RFJ 制作委員会、地元企業

12 児童・生徒のためのコミュニケーションワークショップ

► 市内小中学校の児童・生徒を対象に行うクラス単位のコミュニケーションワークショップ

実施回数 41回
参加者数 1,264人

連携・協力｜市教育委員会、市内小中学校

3 アーラ映画祭 2017

► 市民実行委員が企画から運営まで行う手づくりの映画祭

実施回数 8回
参加者数 27人 延べ202人
集客数 1,484人

連携・協力｜アーラ映画祭実行委員会

13 スマイリングワークショップ

► 不登校児童生徒を対象にフリースクールで行うコミュニケーションワークショップ

実施回数 10回
参加者数 47人

連携・協力｜市教育委員会

まち元気相関図

4 アーラ紙芝居一座 市内巡回公演

► 文学座「朗読ワークショップ実践編」から生まれたアーラ・オリジナル紙芝居一座

稽古実施回数 10回
参加者数 13人 延べ117人
公演回数 4回
集客数 173人

連携・協力｜こども食堂、児童館

14 新日本フィル おでかけコンサート

► 新日本フィルメンバーとともにクラシック音楽を地域へお届け

実施回数 10回
参加者数 335人

連携・協力｜市教育委員会、市内小学校、可茂特別支援学校

5 文学座俳優による子ども向け舞台「ねずみの嫁入り」

► 演劇ワークショップ実践編

稽古実施回数 3回
参加者数 15人 延べ45人
公演回数 4回
集客数 214人

連携・協力｜市民サポーター

15 イギリス人講師によるコミュニケーションワークショップ

► 日英共同演劇制作 関連企画
英国ウェストヨークシャー・プレイハウス（WYP）の講師が市内小中学校で行うワークショップ

実施回数 10回
参加者数 315人

連携・協力｜市教育委員会、市内小中学校、かにっこ英語サポーター

6 みんなのディスコ

► 障がい、国籍、年代、性別などすべての垣根を超えて楽しむダンス企画

実施回数 2回
参加者数 26人 延べ35人
集客数 268人

連携・協力｜市民サポーター、障がい者支援施設、ダンサー・DJ等アーティスト

16 アーラ未来の演奏家プロジェクト 2017

► アーティストが市内に滞在し、地域の方々と交流しながら音楽をつくりあげるプロジェクト

実施回数 20回
参加者数 延べ755人
集客数 110人

連携・協力｜市教育委員会、市内小学校

7 新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート

► 新日本フィルと一緒につくる、障がいのある方、小さなお子さん、誰にでもオープンなクラシックコンサート

実施回数 2回
集客数 800人

連携・協力｜福祉施設・団体

8 多文化共生プロジェクト2017「おはなし工作ものがたり5」～えんげき工作アトラクション～

► 国籍、年齢、障がいの有無に関係なく、工作と演劇で表現することを楽しむ

稽古実施回数 18回（工作・おでかけ演劇WS含む）
参加者数 21人 延べ212人
公演回数 12回
集客数 186人

連携・協力｜市民サポーター、多文化共生センター・フレピア

9 エイブル・アート展

► 障がいのある人たちが「生」の証として生み出した作品を紹介する展覧会。

実施回数 1回
参加者数 勉強会22人
集客数 723人

連携・協力｜（一財）たんぽぽの家、NPO法人エイブル・アート・ジャパン、可児市、市教育委員会、（公財）岐阜県教育文化財団

10 アーラ・イルミネーション

► アーラ冬の思い出づくり。お客様による点灯式を開催。

実施回数 57回
参加者数 点灯式493人 工作WS51人

連携・協力｜NPO法人alaクルーズ

17 新日本フィル ホームカミング「家へおいでよ！」
新日本フィル楽団員との交流企画
実施回数 1回
参加者数 64人

18 文学座 おでかけ朗読会
市内中学生への文学座俳優による朗読会
実施回数 7回
参加者数 781人

19 音楽家の集い おでかけコンサート
こども発達支援センターでの「おやこでうたうコンサート」
実施回数 1回
参加者数 70人

20 親子で楽しむ ワークショップ
ひとり親家庭対象のワークショップ
実施回数 1回
参加者数 22人

21 親子de仲間づくり ワークショップ
0～3才児とその保護者対象のワークショップ
実施回数 22回
参加者数 791人

22 ココロとカラダの健康ひろば
60代以上対象コミュニケーションワークショップ
実施回数 21回
参加者数 217人

23 東日本大震災復興支援 祈りのコンサート2018 ～被災地へ届け、私たちは忘れない～
ココロの復興への祈りを可児から届けるチャリティコンサート
実施回数 1回　集客数 586人

24 ala Collection シリーズ vol.10「坂の上の家」サポーター活動
プロの現場を市民が支える
実施回数 39回
参加者数 17人 延べ117人

25 私のあしながおじさんプロジェクト
地元企業、団体、個人が子ども達の進学機会を応援
実施回数 10回
参加者数 142人

26 歌舞伎と おしゃべりの会
歌舞伎を様々な角度から学ぶ会
実施回数 7回
参加者数 354人

27 森山威男 ドラム道場
トッププレイヤーから学ぶドラムの真髄
実施回数 47回　参加者数 272人
集客数 公開セッション260人

28 平田オリザの「対話を考える」モデル授業
教職員対象のワークショップ
実施回数 1回
参加者数 26人

29 町が元気になる処方箋
町長がゲストと共に劇場の今、そして未来を考える公開座談会
実施回数 1回
参加者数 45人

30 劇場 フロントスタッフ研修
フロントスタッフの基礎知識を学ぶ研修
実施回数 3回
参加者数 84人

合計

実施回数	401回
うち稽古実施回数	74回
参加者数	延べ9,509人
集客数	7,944人

この体験が一人ひとりの「生きる力」に繋がっていく。

毎年恒例の大型市民参加公演。今回は市民ミュージカルの年。
8月に出演者オーディション、10月から翌年3月の本番まで毎週末の稽古を約5か月間。
出演者・市民サポーターは100名を超え、
演技・歌・ダンスが盛り込まれるため必然的にスタッフ数も多くなる。
そして前回公演ではチケットが完売した、お客様の期待度も高い演目。
……3度目の再演とは言え、このタスキを引き継ぐことは重いプレッシャー。

1 大型市民参加公演 市民ミュージカル「君といた夏」～スタンドバイミー可児～

脚本・作詞：瀬戸口郁
作曲・音楽監督：上田亨
演出：黒田百合
振付：神崎由布子
歌唱指導：満田恵子
殺陣指導：井上一馬（イッツフォーリーズ）
演出助手：三井恵子、所村佳子、堀江ありさ
振付助手：齋藤瑞穂

稽古	10月～3月（計43回）
参加者	市民キャスト83人 延べ2,541人
公演	3/3、3/4（2回公演）
会場	ala 主劇場
集客数	1,640人
協力	市民サポーター22人
後援	可児市、可児市教育委員会

覚悟はしていたつもりだが、「想定外」の洗礼はオーディション初日から降りかかる。メインキャスト候補の男の子が「部活との両立が難しいから辞退します」と申し出る。目に涙をいっぱいためた彼を見て、慌てて本人とお母様を説得。ご理解頂けほっと胸を撫で下ろしたのもつかの間、今度はスケジュール調整の困難さが降りかかる。塾そして部活動など子ども達は何て忙しい毎日を過ごしていることか。天秤にかけて稽古を優先させたその選択を悔いることがないよう尽くさなければと心に決める。

この作品は、初演・再演で主役を演じた子たちが今回は不良役を演じたり、森の昆虫役を演じた子たちが小学生役を演じたりと、出演者の成長を感じることができる。そして演出家はじめスタッフ陣も初演から関わっている方が多く、この作品を心から愛してくださっている。作品を深く理解し、公募で集まった出演者の個性に合わせて演出、振付、音楽に手を加えてくださるので、再演と言えども全く同じ作品にはならない。出演者に寄り添ってくださる講師陣のもとでの稽古は、小学生から「ここが学校だったら良いのに」という言葉が聞こえてくる。稽古場はもちろん楽しいだけではなく、時には慣れあいから衝突や事件が起きたり、気持ちが絡まることもある。それでも学校も世代もバラバラの出演者たちが同じ目標に向かって稽古をしているこの空間が、毎日通いたくなる「居場所」になっているんだと感じてくる。

森の昆虫そして動物チームは、ただただ可愛いい存在。通し稽古はきっと集中力が持たないだろうと高を括っていたが、そこには食い入るように稽古を見つめる姿が。これまで自分たちの出演シーンしか知らず、初めて作品の全体像が見え、改めて役割を理解する。その日、目の色が変わり、そしてお気に入りシーンを覚えて真似をし始める。こうやって憧れは芽吹いていく。

インフルエンザの流行する冬期に行われる稽古。体調管理の注意は促してもやはり起こる時は起こる。本番前日に主役の1人が熱を出しゲネプロを前に大事を取って早退させる。
もう祈るしかない事態。りす役の小学生が泣き始める。いつも周りに気を配っているしっかり者の彼女。小さな体で明日を心配する姿に「大丈夫だから」という言葉しか出てこない。翌日、元気になって戻って来た彼にハグの嵐。その姿を見て、「あぁ、いつの間にか仲間になっていたんだ…」と本番前に胸が熱くなる。

出演者という表方からサポーターという裏方になってくれた参加者も。スタッフの手が回らないところを見事にカバーし、小さい子ども達にとっては出演する以外にも作品づくりへの携わり方があること、裏方という存在への気付きのきっかけとなる。
毎週末の稽古場レポートや衣装製作、小道具集めと、たくさんのサポーターの皆さんが作品を支えてくれている。ひとつの作品に関わる人の多さ、思いの重さを、当初感じていたプレッシャーとは違う、有難いという感情が勝っていく―。

満員御礼となった本番の客席。それぞれの良い所を存分に伸ばしてくれたこれまでの稽古を自信に、いざ晴れの舞台へ。やりきった笑顔が、感極まった泣き顔が公演の成功を物語る。
また今年も「君といた夏」への愛が年輪となる。1つの頂きを目指して共に歩いていた仲間たちも、ゴールと共にそれぞれが違う道を歩き始める。
これから向かう道には色んな事が待ち受けている。それでも、仲間と一緒にいた時間やエールのようなメロディ、ひとりひとりの「君といた夏」が、その時の自分を支え、奮い起こしてくれるはず。また会いたいな、帰りたいな、と思った時に故郷のようにそこに当たり前にあるアーラでありたい。

2 「君といた夏」関連企画
A 忍者ワークショップ『忍者修行』
B 現代キッズ・ヤングよ、これがSHOWAだ！

出演者募集時期に開催した『忍者修行』では、演劇ワークショップの手法を取り入れ演劇の楽しさを体験することで応募のきっかけづくりを。チケット発売時期に開催した『これがSHOWAだ！』では、昭和のおもちゃ工作から、昭和の雑誌表紙を飾るアイドルなりきり撮影会、各種遊び王決定戦で物語の時代設定である昭和を現代の子ども達に。

日程	A：7/15（計2回）、B：2/4（計1回）
会場	ala　A：レセプションホール、B：音楽ロフト
参加者	A：30人、B：60人
協力	A：Fun Fan ala、B：「君といた夏」市民サポーター

▲A忍者ワークショップ『忍者修行』（写真左）／B現代キッズ・ヤングよ、これがSHOWAだ！（写真右）

3 アーラ映画祭2017

アーラ映画祭の特徴は、市民実行委員会と財団が共同主催している点。その最大のメリットは市民主体の企画になりやすい事。下は10代から上は70代まで幅広い年齢層の27人の実行委員が映画選定から広報、当日の運営まで関わっている。「映画が好き」「人と関わって皆のために活動することが好き」この共通点に年齢は関係ない。尊敬すべき点は、ただ単にお客さんが入りやすい映画を上映したり、自分が観たい作品を上映したりすることに偏らない事。芸術性を理解しつつ地域のニーズも考慮して、その両輪を考えて映画選定は行われる。

聴覚に障がいを持つ実行委員さんをきっかけに2016年10月初めてバリアフリー日本語字幕付き上映に挑戦。この挑戦で、意外な反応をお客様から頂く。「聴覚障がい者だけでなく、耳が遠くなった年配者も字幕があると助かる。」

実行委員さんの活動は、映画を通してコミュニティをつくる事につながり、そしてアーラの事業を共に考える応援団をつくっている事でもあると思う。

日程	会議：通年21回／映画祭：10/20～10/22（計8回）		
会場	ala 小劇場	参加者	実行委員27人　延べ202人
ゲスト	『湯を沸かすほどの熱い愛』中野量太監督、『人生フルーツ』阿武野勝彦プロデューサー		
集客数	1,484人	主催	アーラ映画祭実行委員会、（公財）可児市文化芸術振興財団

4 アーラ紙芝居一座　市内巡回公演

alaで生まれた果実を地域の子ども達へ

2015年「朗読ワークショップ実践編」にて、文学座演出家・森さゆ里さんを招きファミリー向け紙芝居を創作したことが始まり。以降「アーラ紙芝居一座」として地域の子ども達のために活動を続けている。

読み手が飛び出したり歌や踊りがあったりと、これまでの紙芝居の固定概念を覆す全く新しいスタイルの紙芝居。「大きなカブ」「シンデレラ」といった親しみ深い作品をレパートリーにして、市内こども食堂と児童館へお届け。「また次回も」というリクエストに応えるために2018年は新作を手掛ける予定。

稽古日程	月1～2回（計10回）
参加者	20代～70代の13人　延べ117人
公演日程 会場・集客	4/9・可児子ども食堂・28人、9/9・桜ケ丘こども食堂・50人、 11/18・兼山児童館・51人、12/23・姫こども食堂・44人 （計4公演／計173人）

5 文学座俳優による子ども向け舞台「ねずみの嫁入り」

「演劇ワークショップ実践編」として、短期間の稽古で子ども向け作品を創作・上演。文学座の演出家・俳優陣の指導のもと、短編ながら上質の作品を子ども達にお届け。

一過性のもので終わってしまいがちな朗読や演劇ワークショップの発展系として2014年に始めたのが、その成果を子ども達に還元していくという仕組み「文学座と作る子ども向け芝居」。2017年「ねずみの嫁入り」では、顔合わせ・配役オーディションから、芝居・歌・踊りの稽古、小道具製作など、上演までに必要とされる工程を3日間に凝縮させ、4日目には本番を迎えるというスケジュール。この短期集中スタイルが出演者にとっては参加しやすく、かつ濃密スケジュールが技術向上と充実感を、公演を楽しむ子ども達の笑顔が達成感をもたらす。「アーラ紙芝居一座」メンバーも参加することで、プロから新しい刺激や学びを得、自分たちの作品づくりに活かしている。

稽古日程	［稽古］:8/23～8/25（計3回）［公演］:8/26～8/27（計4回）		
会場	ala 演劇練習室	台本	さいとうゆういち、たかやなぎあきこ
講師・出演	文学座俳優／鈴木亜希子、西岡野人、髙柳絢子	集客数	214人
参加者	19才～71才 15人（延べ45人）	協力	市民サポーター

6 みんなのディスコ

障がい・国籍・年代・性別などすべての垣根を超えて楽しむダンス企画。

2016年の初開催から次回を望む声が高く、2017年は年2回開催に挑戦。
6月、児童発達支援団体のコンサートで偶然アーラに来ていた女の子が、お父さんお母さんと一緒にディスコに来てくれる。仮装用のおもちゃの帽子を被ってとてもリズミカルに楽しそうに踊ってくれた遥奈ちゃん。そんな遥奈ちゃんを見つめるお父さんお母さんの優しい眼差しが心に残った。

12月、クリスマスをテーマに会場装飾や仮装そしてパフォーマンスにまで気が配れるほど開催のノウハウが蓄積。ボランティアスタッフを募集すると、企画意図に賛同した26人もの市民が集まり、当日運営スタッフは可茂学園の職員さんから障がい者に対する接し方のレクチャーも頂いた。

どんどんボルテージが上がっていく会場、たくさんの笑顔、全ての垣根を超えて皆が踊る姿を見て、もっと楽しい事をもっと参加したくなる工夫をと、エネルギーが投げかけられているような思いがした。

障害者も健常者も 可児市で「ディスコ」

垣根なく
ダンスダンス

▲岐阜新聞6月27日掲載記事

日程	6/24、12/16（計2回）
会場	ala 演劇ロフト・音楽ロフト
集客数	268人
協力	障がい者支援施設可茂学園

参加者

ダンサー：RYU、チーム可茂学園、Peacock、Pico、ぷっちピコ、元気ィーズ・エンジェル、SORA
シンガー：KARYLL（カリル）
DJ：蛯名桂(Brownie)、N.O.D.Asummer(Brownie)、まっつん、
MC：FANG、MO-RIS

7 新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート

障がいのある方、小さなお子さんがいるご家庭、普段は劇場に出かけることが難しい方でも気軽にクラシックを楽しめる、誰にでもオープンなコンサート。

車いす利用者がノンステップで自席まで行くことのできるスロープ、小さなお子さんがリラックスして楽しめるのびのび鑑賞席などストレスフリーな鑑賞環境。「このコンサートでは周りの目を気にすることなく自由に楽しんで大丈夫ですよ」というメッセージを受取り、毎年来場くださる団体固定客。歴史が浅いながら3年目にして継続主催事業の1つとして確固たるポジションを獲得。新規で鑑賞申込みがあった団体へは必ず足を運び、不明点・不安点を解消するように心がけている。集中して音楽を聴くことができなくても、一緒に歌ったり、手拍子で参加したり、自分らしく音楽を楽しむことができるこのコンサートが年に一度の恒例行事となってほしい。

日程	6/15(2回公演)	協力	福祉施設・団体
会場	ala 主劇場	出演	〈弦楽アンサンブル〉ビルマン聡平(Vn)、田村直貴(Vn)、山本のりこ(Vn)、外園萌香(Vn)、竹中勇人(Vn)、矢浪礼子(Va)、高橋正人(Va)、植草ひろみ(Vc)、大木翔太(Vc)、村松裕子(Cb)
集客数	800人		

14 新日本フィルおでかけコンサート

劇場を飛び出し、本物のクラシック音楽をお届けする企画。コンサートはもとより、楽器体験では初めて触れる楽器に子ども達は目を輝かせ、音のなる仕組みも学ぶ。

弦楽四重奏で1stヴァイオリンを務めたビルマンさんはとてもフレンドリーな方。小学校おでかけコンサートでは、昼休みには子ども達とサッカー。子ども達にとって、一緒に遊んでくれたお兄さんが演奏家だったという切り口からの交流が。また練習風景を子ども達が興味津々で覗き込み、演奏終わりには外から拍手が沸き起こる光景も。楽団員の来校をきっかけに、子ども達が演奏家と音楽に気持ちが昂る機会となった。

稽古日程	〈弦楽四重奏〉6/13、6/14、6/16　〈木管五重奏〉6/21、6/22(計10回)		
会場	広見小学校(4回)、旭小学校(3回)、帷子小学校(2回)、可茂特別支援学校(1回)		
参加者数	335人	協力	可児市教育委員会
出演	〈弦楽四重奏〉ビルマン聡平(Vn)、外園萌香(Vn)、矢波礼子(Va)、植草ひろみ(Vc)　〈木管五重奏〉斎藤光晴(Fl)、庄司知史(Ob)、重松希巳江(Cl)、坪井隆明(Fg)、熊井優(Hr)		

8 多文化共生プロジェクト2017「おはなし工作ものがたり5」～えんげき工作アトラクション～

2008年から続く、異なる言葉や文化を持った人が、演じる楽しみ・創る楽しみ、そして皆でやり遂げる喜びをカタチにするプロジェクト。

2016年まで小劇場を会場に公演してきた本プロジェクト。2017年はお客様自身が会場内を歩きながら跳んだり、触ったり、五感で楽しむことができる参加型演劇的工作アトラクションにコンセプトをリニューアル。出演者にとっては、舞台作品づくりとは違う、演劇体験のなかで自己表現する喜びを感じてもらうことに重点を置き、時間の制約という参加のハードルを下げた。

初参加のブラジル人高校生2人はあまり日本語が得意ではなく、とてもシャイな性格。「大丈夫かな…。」稽古序盤から心配が募る。すると子どもたちは携帯アプリやゲームで次々とコミュニケーションを取り始め、どんどん距離を縮めてく。子ども達はこうも大人の心配を軽々と乗り越えてしまうものか。ついつい言葉に頼っていた自分を痛感する。

今回の物語は、海賊に扮した出演者たちが案内役となって、お客様も仲間の一員として迷路状の海の冒険に乗り出すというもの。案内役以外には複数の役柄が与えられて、入口では「一緒に海の仲間になろう！」と言って、別の場面では悪い海賊役で「お宝よこせー！」と叫びながら襲いかかる。衣裳を替えるのでお客様には同一人物だと気付かれないが、端から見ているとそのあっぱれな豹変振りに笑いが込み上げてくる。まさに“演じる”ことを楽しんでくれている。

影の立役者となっているのが、外国人メイクチームMK Beauty Designの皆さん。彼女たちのメイクが施されると、出演者の役者スイッチがみるみる押されていく。1ツアー10分程度のアトラクションを2日間で12回！完売御礼の大盛況。回数を重ね疲れが出てくる頃かと思えば、お客様の「また行きたい！」の言葉を聞いて、おもてなしスイッチが稼働。しかも演技が毎回上手くなっている。お客様との距離が近いアトラクションだからこそ反応がダイレクトに伝わって、見事やりきった出演者たちの笑顔には達成感があった。

日程	工作ワークショップ：7/22、7/23（計2回） おでかけ演劇ワークショップ：5/25、5/26、6/17、6/18（計4回） 稽古：7/29～8/18（計12回）
スタッフ	作・演出：森さゆ里（文学座）／美術：大沢佐智子／アシスタント：佐藤里真、松崎亜希子 舞台監督：清水スミカ／メイク協力：ブラジルとペルーのメイクチーム MK Beauty Design
会場	ala 演劇ロフト、音楽ロフト 他
参加者	出演者21人 （11才～59才、日本、ブラジル、フィリピン）延べ212人
公演	8/19、8/20（計12回）
集客数	186人
協力	多文化共生センター・フレビア、市民サポーター

ちょっと一息

ala ドリンクサービス

年間の公演をセットにして20%引きで一般発売よりも早く良い席を購入できる「パッケージチケット」サービス。インターネット予約可能サービスですが、毎年、各発売日には早朝から窓口が開くのを並んで待ってくださるお客様も。まだ肌寒い季節の3月。心ばかりですが温かいコーヒーとレモンティーをどうぞ！

9 エイブル・アート展

障がいのある人たちが「生」の証として生み出した作品を「可能性（able=エイブル）の芸術」として紹介する展覧会。2016年からは障がいとアートの繋がり、可能性について学ぶ勉強会も開催。

日程	展覧会：7/15〜7/23 勉強会：7/21
会場	展覧会：美術ロフト 勉強会：演劇ロフト
講師	岡部太郎（一財）たんぽぽの家
参加者	勉強会：22人
集客数	展覧会：723人
主催	可児市
企画	（一財）たんぽぽの家
協力	NPO法人エイブル・アート・ジャパン、（公財）岐阜県教育文化財団 可児市教育委員会

10 アーラ・イルミネーション

2017年のテーマは「夢」。alaクルーズ手作りの「シンデレラ」が輝くと子ども達も大興奮。期間中には手作りランプワークショップも開催。毎晩1組のお客様に点灯ボタンを押して頂く「点灯式」は、受付開始早々に予約が埋まり大盛況！家族の恒例行事で、お孫さんの入学のお祝いに、お誕生日の記念に、快気祝いに…。2017年も家族そして仲間の思い出の1ページを彩ります。

	点灯式	工作ワークショップ
日程	12/2〜2/14（計57回）	12/23
会場	ala 水と緑の広場	ala 美術ロフト
参加者	延べ493人	51人
共催	NPO法人alaクルーズ	

▲12月8日

▲1月15日

▲1月17日

▲2月14日

11 ROCK FILL JAM in ala 2017

地域・音楽・美味しいもの・アートが融合した誰もが楽しめる劇場型音楽フェス。地元有志による制作委員会とアーラが協力して開催。

ライブステージの様子

ROCK FILL JAM（以下RFJ）は前身のヤングミュージックフェスタ（YMF）から発展したプロジェクト。YMF時代は、バンドとそのファンが楽しむ音楽イベントという趣があり、広がりという点で弱いものだった。そこで2015年、より多くの市民が多様な楽しみ方のできるイベントへと方向転換、RFJが誕生。以降「可茂地区を楽しく！おもしろく！」という想いで新たな試みに毎回挑戦し、年々、内容の充実・規模の拡大を図っている。

地元有志による制作委員とアーラが協力し、地域と連携しながら、音楽・マルシェ・アート・ワークショップ・映画も交えた、子どもから大人まで誰もが丸1日楽しく過ごせる空間が実現。熱い思いを胸に活動を続けるなかで、メンバーのイベント運営スキルもみるみる向上。近頃は他イベントでも協力を仰がれる存在に。RFJをきっかけに出会いが広がりスキルも磨け、RFJ以外でも地域を面白くする〝まち元気〟が広がっている。

日程	8/6
会場	ala 小劇場ホワイエ、音楽・演劇・美術ロフト、映像シアター、レセプションホール
参加者	ライブ出演19組、マルシェ・フード出店53組、映画上映団体1組
集客数	1,500人
主催	ROCK FILL JAM 制作委員会
共催	（公財）可児市文化芸術振興財団
協賛	22企業

▲マルシェの様子（写真左・中央）／西可児出身アーティスト集団による「アートラクガキ広場」（写真右）

12 児童・生徒のための コミュニケーションワークショップ

日程	4/20～12/14（計41回）
会場	今渡北小学校（4回）、今渡南小学校（6回）、帷子小学校（11回）、桜ケ丘小学校（3回）、広見小学校（14回）、東可児中学校（3回）
参加者	1,264人

国語のような、音楽のような、図工のような、体育のような授業だったので、間違えはなかったので楽しくやれて良かったです。ダンスにも自分の個性があるということが分かった。（小学3年生）

「流しそうめん」のお題で、僕はそうめんになって食べられる役になりきったので、とても良い（おもしろい）今までで最高のジェスチャーになりました。
（小学4年生）

話を最後までよく聞くことで、楽しく充実した活動ができること。
テーマについて自分たちで考え話し合うことで、様々なアイディアや仲間の多様な考えが得られることを子ども達が実感できていた。
（小学4年生 担任）

13 スマイリング ワークショップ

日程	4/20～12/14（計10回）
会場	可児市教育研究所・スマイリングルーム
参加者	47人

子ども達ひとりひとりを上手に巻き込んでくださり、全員の生き生きとした顔を見ることが出来ました。ひとりひとりの持つ良さ、伸ばしていけるところを認めながら、仲間とよりよく生活していける力を身に付けさせていきたいと思いました。
（小学3年生 担任）

講師：新井英夫（体奏家、ダンスアーティスト）／Ten seeds（劇・あそび・表現活動）／アシスタント3人
主催：可児市 企画・実施：（公財）可児市文化芸術振興財団 協力：可児市教育委員会

SROI調査 社会的投資収益率

可児市が行った効果検証の調査においてSROI（社会的投資収益率）が2.31と算出されました。
（事業費100万円の場合、100万×2.31＝231万の効果が認められる）

15 イギリス人講師によるコミュニケーションワークショップ

2015年4月、英国随一の地域劇場ウェストヨークシャー・プレイハウス（以下WYP）と人事交流そして国際共同制作を目的とした劇場提携を締結。
その一環として2016年度よりWYPから講師を招いてのコミュニケーションワークショップを市内小中学校で開催。

講師として招いたのは、WYPでコミュニティワークショップ・コーディネーターを務めているエイミー・ランスロットさん。彼女は教師の経験と大学で演劇を学んだ経歴を持ち合せており、とにかく元気でフレンドリー。ワークショップ会場を瞬く間に明るくイキイキとさせるパワーがあった。

子ども達にとってよりきめ細かいフォローができるよう講師アシスタントを市内で探すこととした。小学校での英語授業は「かにっこ英語サポーター」と呼ばれる皆さんがアシスタントで入っていることを知り早速協力を仰ぎ、毎回4人程度がアシスタントに入る体制を組む。さすが皆さん普段から子ども達と接しているので場に馴染むのが早い。そしてワーク終了後には振り返りを行い、プログラムに丁寧な修正を行った。そんな時間を重ねる毎に、講師陣がまさにチームとなっていると感じこれは地域のワークショップ講師養成プログラムとしても活用できると感じた。目的を共有し、プログラムを組立て実践し、効果と課題を見つけ修正をかけていく。このプロセスを短期集中で経験できることは、ノウハウを身に着ける上で効果的。スキルを身につけた人材が地元に多く存在することは、経済的にも活動の質や展開の上でも有利に働く。出会いをきっかけに潜在的スキルを持ち合わせている人材を汲み上げることにも今後注力していきたい。

勇気を持って 自分らしく

▲中日新聞2018年1月23日掲載記事

日程	1/22〜1/26（計10回）
会場	今渡北小学校（4回）、東明小学校（2回）、西可児中学校（4回）
参加者	315人
講師	エイミー・ランスロット（WYP）
通訳	大島広子
協力	可児市教育委員会、かにっこ英語サポーター

16 アーラ未来の演奏家プロジェクト2017

ここ、可児で生まれる音楽には人の温もりがある。

活躍中の演奏家2人が可児市初共演。5日間の滞在期間中、地域の皆さんと様々な音楽交流プログラムを重ね、最終日に集大成のコンサートを開催。

1日目

演奏家のお二人は可児に到着するやいなや多少の打合せとリハーサルのみでロビーコンサートに突入。美しい音色に誘われて子ども達とママ達が集まります。夕方のウェルカム・ミニコンサートではダンス・アーティスト新井英夫さんとの即興コラボレーションも実現。

2日目

帷子小学校5年生に音楽の授業をお届け。プロの演奏家をこんなに間近で見て聴いて、一緒に合唱。その後alaでサプライズ・ロビーコンサートと最終日に向けてのリハーサル、夜は地元学生の皆さんへピアノそしてヴァイオリンの個人レッスン。

3日目

午前中は今渡南小学校5年生の音楽の授業にお出かけ。給食も賑やかに一緒に頂きサイン攻めで子ども達からたくさんパワーをもらいます。昼間に出合った子ども達の笑顔を思い起こしながらリハーサルは夜遅くまで続きます。

4日目

午前中からリハーサルを重ね、お昼は屋外でサプライズ・コンサート。館内はもとより外の水と緑の広場でも突然音色が響き渡ります。午後からは小学校の子ども達が遊びに来てくれて、リハーサルを見学したり楽器に触れてみたり。「明日の本番も来ます！」

5日目

可児滞在最終日。この5日間リハーサル見学に来てくれた方、お出かけした小学校そして一緒に水遊びした子ども達、個人レッスンをした学生さん、偶然サプライズ・コンサートを聴いた皆さん、沢山の出会いに思いを巡らせつつコンサートの音色にも温かさ滲れます。

日程	6/7〜6/11（計20回）	集客数	最終日コンサート110人	参加者	延べ755人		
会場	ala館内、帷子小学校、今渡南小学校	出演	三浦明子（Vn）、居福健太郎（Pf）	コーディネーター	佐野秀典（作曲・編曲家）	協力	可児市教育委員会

alaから飛び出してお届け編

17 新日本フィル ホームカミング「家へおいでよ！」

▶ 地域拠点契約を結ぶ新日本フィル楽団員と市民が交流し、演奏家をより身近な存在として感じる企画。

日程	9/10
会場	中部中学校
ゲスト	伊藤駿（新日本フィル首席トランペット奏者）
参加者	吹奏楽部員64人
協力	可児市教育委員会

18 文学座 おでかけ朗読会

▶ 広島と長崎に落とされた二つの原子爆弾。文学座の俳優が語り部となり、決して忘れてはいけない被爆者の想いと、平和の大切さを中学生へ語り伝える。

日程	7/4～7/7（計7回）
会場	広陵中学校、蘇南中学校、東可児中学校、中部中学校
出演	南一恵（俳優・文学座）
参加者	781人
協力	可児市教育委員会

▲岐阜新聞2017年7月8日掲載記事

19 音楽家の集い「おやこでうたうコンサート in くれよん」

▶ アーラで毎年2回開催される、0才から楽しめるクラシック「おやこでうたうコンサート」を市内子ども発達支援センターへお届け。子ども達のいつもの場所に演奏家がやってきて、楽器を身近に見て、聴いて、親子で楽しく歌える時間。

日程	2/23
会場	子ども発達支援センターくれよん
出演	濱津清仁（Pf）、鷲見真純（Sop.）、工藤崚司（Cl）、河井裕二（Vc）
参加者	70人
協力	福田音楽事務所

alaで出会って みんなで楽しむ編

20 文学座 親子で楽しむワークショップ

▶ ～ひとり親家庭応援～ひとり親家庭を孤立化させないために演劇をツールにしたコミュニケーションワークショップを実施。ワークショップ終了後には子育て経験のある講師と交流。

日程	12/17
会場	可児市福祉センター
講師	西川信廣（演出家・文学座）
参加者	22人
アシスタント	浅海彩子、佐藤麻衣子（俳優・文学座）
共同主催	可児市母子寡婦福祉連合会

21 親子de仲間づくりワークショップ

▶ 市内在住の0～3才児とその保護者対象。参加希望増加に伴い子どもの月齢に応じて2チームに分けて実施。ダンス・演劇2組の講師が交互に担当し、いつの間にか仲間の輪が広がる。ワーク終了後に自由に会場で過ごせることも人気。

日程	通年（計22回）4月～7月、10月～12月の水曜日
会場	ala レセプションホール、ほか
講師	新井英夫（体奏家・ダンスアーティスト）、Ten seeds（劇・あそび・表現活動）、アシスタント3人
参加者	延べ791人

22 ココロとカラダの健康ひろば

▶ 60代以上の方ならどなたでも参加可能。それぞれのペースで無理なく自然に体を動かせる範囲で活動。ココロとカラダがほぐれると、まるで昔からの友だちのような関係性が生まれる。思いきり笑い合ったワーク終了後にはお茶飲みおしゃべりタイムも。

日程	通年（計21回）4月～7月、10月～12月の水曜日
会場	ala レセプションホール、ほか
講師	新井英夫（体奏家・ダンスアーティスト）、Ten seeds（劇・あそび・表現活動）、アシスタント3人
参加者	延べ217人

alaを通じて誰かのために編

23 東日本大震災復興支援　祈りのコンサート2018

▶ ～被災地へ届け、私たちは忘れない～ 震災以降毎年続けているチャリティーコンサート。公演の収益とお客様から頂いた義援金を、被災地の心の復興のために現地で活動している団体に寄託。今回は「君といた夏」出演者も賛助出演。

日程	3/11
会場	ala 主劇場
出演	辻彩奈（Vn）、斎藤龍（Pf）、市民ミュージカル「君といた夏」出演者
ナビゲーター	佐野秀典（作曲・編曲家）
集客数	586人
協賛	8企業

寄託先：公益社団法人宮城県障碍者保健福祉協会みやぎ心のケアセンター／福祉ボランティア「こころのもり」／福祉ボランティア大陸「ひまわり」
気仙沼地域福祉ボランティア「こもれびの会」／宮古地域福祉ボランティア「支え愛」

24 ala Collection シリーズ vol.10 「坂の上の家」サポーター活動

▶ プロの演劇制作現場を市民が得意分野で支える活動。広報宣伝活動、稽古場ケータリング、仕込みバラシの手伝い、お楽しみ企画でのおもてなしなど活動は多岐に渡る。

日程	7/30～10/12（計39回）
会場	ala 演劇ロフト、製作室、小劇場、他
講師	西川信廣（演出家・文学座）
参加者	市民サポーター17人、延べ117人

25 私のあしながおじさんプロジェクト

▶ 地元企業・団体・個人の寄付により市内中高生へ公演チケットをプレゼントするプロジェクト。2015年からは経済的支援を受けているご家庭を対象とした For Family制度も開始。

会場	ala 主劇場、小劇場
参加者	対象10公演 鑑賞者 延べ142人 （内 For Family 69人）
協賛	25企業・団体・個人
協力	可児市 可児市教育委員会

alaでわたし磨き、一緒に学び考える編

26 歌舞伎とおしゃべりの会

▶ 歌舞伎を様々な角度から学べる14年間続いている講座。伝統ある芸や技を五感で体験できるのが魅力。

日程	通年（計7回）
会場	ala 映像シアター、演劇ロフト
講師	中村橋吾、吉田豊、葛西聖司、安田文吉
ゲスト	渡辺文雄、中村亀鶴、長谷川栄嵐、望月太八一郎
集客数	354人
協力	可児歌舞伎同好会

27 森山威男ドラム道場

▶ 可児在住ジャズドラマー森山威男が初心者からプロの卵まで百戦錬磨のノウハウを伝えるドラムスクール。

日程	通年　毎週月曜日（計47回）
会場	ala 音楽ロフト 他
参加者	272人
集客数	公開セッション（計2回）260人

28 平田オリザの「対話を考える」モデル授業

▶ 教職員を対象に演劇を取り入れたワークショップを通じてコミュニケーションについて学ぶ授業。

日程	8/10
会場	ala 音楽ロフト
参加者	小中学校および幼稚園の先生26人
協力	可児市教育委員会

29 衛紀生のおしゃべりシアター 町が元気になる処方箋

▶ スペシャルゲストと共にまちづくりについて話し合う公開座談会。今回のテーマは「子どもの貧困と劇場」。

日程	8/10
会場	ala 映像シアター
ゲスト	平田オリザ（劇作家・演出家・青年団主宰）、栗林知絵子（NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長）
集客数	45人

30 劇場フロントスタッフ研修

▶ フロントスタッフの基礎知識を学べる、初心者向け講座と経験者のフォローアップ講座。

日程	養成講座7/1、7/15 フォローアップ講座11/11
会場	ala 主劇場、小劇場
講師	星乃もと子（Theatre Management Plan Co., Ltd. 代表）
参加者	84人
協力	NPO法人alaクルーズ

劇場のあり方を再定義する勉強会

世界劇場会議 国際フォーラム2018 in 可児

「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかⅢ」～鑑賞者開発と資金調達環境の改善を両立させる劇場経営へ～をテーマに、社会的排除により人間の尊厳さえも脅かされる今日的な時代、劇場・ホールのあり方を議論。

日程	2/8～2/9
会場	ala 小劇場
ゲスト	セーラ・ジー（芸術文化組織コンサルティング会社インティゴ社業務執行役員）、幸地正樹（ケイスリー株式会社 代表取締役CEO）、サーラ・オーグル（リヴァプール・エグリマン&プレイハウス マーケティング&コミュニケーション部長）、ヴィヴィアン・ヒューズ（ウェストヨークシャープレイハウス 資金調達部 シニア・マネージャー）、西川信廣（文学座所属演出家）、藤原意夫（文化庁文化部長）、カス・ラッセル（ハル管弦楽団資金調達部部長）、新井英夫（体奏家／ダンスアーティスト）、館田有作（NPO法人日本演劇情動療法協会理事長、演劇情動療法士）
参加者	120人
共催	NPO法人世界劇場会議名古屋
その他	2/11 さいたま市文化センターにて同フォーラムを実施

劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾2017」

劇場職員、自治体職員、議員、劇団制作者、大学教授、NPO職員、学生、市民の様々な立場の塾生が集まり、第一線で活躍する講師を招き、各回1泊2日の合宿形式で開催するアーツマーケティング・ゼミ。

日程	Step1：5/18～5/19、Step2：10/25～10/26、Step3：1/17～1/18
会場	ala 音楽ロフト、美術ロフト、レセプションホール
ゲスト	Step1…「マーケティング」 世良耕一（東京電機大学教授） Step2…「社会包摂」 幸地正樹（ケイスリー株式会社 代表取締役CEO） Step3…「文化政策」 中川幾郎（帝塚山大学名誉教授、日本文化政策学会前会長・顧問）
参加者	延べ95人

alaまち元気プロジェクト

★ パートナーグッズ ★

シリコンバンド　500円（税込）

ピンバッチ　500円（税込）

マグカップ　700円（税込）

※2枚1組

クリアファイル　100円（税込）

賛同の気持ちとして購入いただき
身に着けることで
応援していただいています。

可児市文化創造センター
www.kpac.or.jp/machigenki/

alaまち元気プロジェクトレポート2017
発行：公益財団法人可児市文化芸術振興財団
〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433番地139

KANI PUBLIC ARTS CENTER ala